

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	辻村和服専門学校
設置者名	辻村宜孝

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
服飾・家政専門課程	師範科	夜・通信	6284 単位時間	320 単位時間	
	高等師範科	夜・通信	7941 単位時間	400 単位時間	
服飾・家政専門課程	和裁本科	夜・通信	3130 単位時間	160 単位時間	
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	辻村和服専門学校
設置者名	辻村宜孝

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	教育課程編成委員会
役割	<p>実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）に活かすことを目的に設置</p> <p>委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。</p> <p>(1) 業界における人材の専門性等の動向 (2) 国又は地域の産業振興の方向性 (3) 実務に必要な最新の知識・技術・技能 (4) その他、教育課程の編成に関連する事項</p> <p>委員会の委員は校長および校長が指名する教職員の他、専攻分野に関する企業等の役職員から広く選任するものとし、少なくとも以下の①または②から1名、③から1名を委員に加えることとする。定数は2名以上とする。</p> <p>① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員 ② 専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者 ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p> <p>2 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。 3 補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。</p>

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
楠神博生 くすかみ呉服店 代表取締役	2019年4月1日 ～2025年3月31日	無
山本久子 静岡和装教育推 進会 監事	2019年4月1日 ～2025年3月31日	無
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	辻村和服専門学校
設置者名	辻村宜孝

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>教育基本法に従い和服・和裁の技術の修得を行い、それをとおして豊かな教養と人格を備えた人材を育成することを目的としています。カリキュラム編成において設定した科目は、全てこの目的を達成するための担いがあります。</p> <p>授業計画の考え方としては、学生が主体的に学習を進めることができるよう、授業の目的や目標、成績評価などについて、周知するものです。また、意義としましては、学生の学習を効果的に支援できる、授業改善につながる事が挙げられます。</p> <p>○シラバスの作成</p> <p>毎年度、授業の検証し、教育課程編成委員会の意見を加味し、各担当の教員により内容について作成を行います。共通の様式にて全ての項目を記載します。</p> <p>○作成時期</p> <p>翌年度のシラバスは、11月末までに各授業の担当教員が作成し、学校運営会議にて正式決定し、翌年度開始日までにホームページ上で公開します。</p> <p>※上記、「辻村和服専門学校シラバス作成ガイドライン」より抜粋</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>和裁実習の科目においてA～Eの5段階評価を行い、評価がD以上を当該科目の修得レベルとする。他実習科目においては、優・良・可・不可の4段階評価を行い、評価が可以上を当該科目の修得レベルとする。各学科において定められた科目すべてに対して判定会議において修得レベルに達したと承認を得られた場合、進級認定を与える。但し、E評価、不可の判定があり、判定会議において追試験を認めた場合、それを受験し一定の基準をクリアしたもののみ、進級認定を受けることができる。</p> <p>*参考</p> <p>5段階評価 A100-90、B89-80、C79-60、D59-50、E49-0</p> <p>4段階評価 優 100-90、良 89-70、可 69-50、不可 49-0</p> <p>上記を学則に定め、実施しています</p>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各科目の評価点に授業時間数を掛け、合計した点数を算出することで成績分布状況を把握する。 上記を学則に定め、実施しています。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) カリキュラムの履修を通し、社会で活躍できる和裁・着物の専門家としての能力を身につける。また、和裁を重視したカリキュラムの編成により、即戦力として、日本の伝統的な民族衣装である着物の仕立てができる実践的な能力を身につける。以上を卒業認定の方針とし、教育課程の修了又は卒業は、所定の課程を修了した者について、定期的に行う試験、実習の成績、履修状況等を総合的に勘案し、成績評価のうえ認める。 上記を学則に定め、実施しています。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	辻村和服専門学校
設置者名	辻村宜孝

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報 3-1

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	師範科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	6610 単位時間/単位	62 単位時間/単位	単位時間/単位	6548 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
48人		24人	人	8人	人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育基本法に従い和服・和裁の技術の修得を行い、それをとおして豊かな教養と人格を備えた人材を育成することを目的としています。カリキュラム編成において設定した科目は、全てこの目的を達成するための担いがあります。授業計画の考え方としましては、学生が主体的に学習を進めることができるよう、授業の目的や目標、成績評価などについて、周知するものです。また、意義としましては、学生の学習を効果的に支援できる、授業改善につながる事が挙げられます
成績評価の基準・方法
（概要）和裁実習の科目においてA～Eの5段階評価を行い、評価がD以上を当該科目の修得レベルとする。他実習科目においては、優・良・可・不可の4段階評価を行い、評価が可以上を当該科目の修得レベルとする。各学科において定められた科目すべてに対して判定会議において修得レベルに達したと承認を得られた場合、進級認定を与える。但し、E評価、不可の判定があり、判定会議において追試験を認めた場合、それを受験し一定の基準をクリアしたもののみ、進級認定を受けることができる
卒業・進級の認定基準
（概要）総出席日数の不足により、進級・卒業認定できないものは留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。各学科の年間の課程で定めた各科目の内、一つでも成績がEもしくは不可の科目又は、成績判定が出来ない科目があった場合及びその追試験に合格できなかった場合、留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。

学修支援等
(概要) ①入学時 説明会の実施。②在学中は専任の教員が指導し、個々にあった学習指導を行う。③個別面談を半期に1～2回実施し、学習等について理解する機会を設けている。④学生の勉学を整えるために、独自の奨学金制度等を設け、また、設備面も寮を設置し、生活の支援を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100%)	1人 (14.3%)	6人 (85.7%)	人 (%)
(主な就職、業界等) (有)辻村和裁研究所、松竹衣裳(株)、他呉服店、写真スタジオなど			
(就職指導内容) 3年次より業界研究や進路を本格的に検討させ、就職活動をさせている。希望者には履歴書や面接等の対策を行い、マッチする企業があれば紹介している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家技能検定和裁技能士2級、3級取得			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	2人	6.7%
(中途退学の主な理由) 病弱、不登校		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に個別面談を行うことで、できるだけ学生の事情を把握。		

学科等の情報 3-2

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	高等師範科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
5年		8306 単位時間/単位	68 単位時間/単位	単位時間/単位	8236 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		20人	人	8人	人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）教育基本法に従い和服・和裁の技術の修得を行い、それとおして豊かな教養と人格を備えた人材を育成することを目的としています。カリキュラム編成において設定した科目は、全てこの目的を達成するための担いがあります。授業計画の考え方としましては、学生が主体的に学習を進めることができるよう、授業の目的や目標、成績評価などについて、周知するものです。また、意義としましては、学生の学習を効果的に支援できる、授業改善につながるものが挙げられます
成績評価の基準・方法
（概要）和裁実習の科目においてA～Eの5段階評価を行い、評価がD以上を当該科目の修得レベルとする。他実習科目においては、優・良・可・不可の4段階評価を行い、評価が可以上を当該科目の修得レベルとする。各学科において定められた科目すべてに対して判定会議において修得レベルに達したと承認を得られた場合、進級認定を与える。但し、E評価、不可の判定があり、判定会議において追試験を認めた場合、それを受験し一定の基準をクリアしたもののみ、進級認定を受けることができる
卒業・進級の認定基準
（概要）総出席日数の不足により、進級・卒業認定できないものは留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。各学科の年間の課程で定めた各科目の内、一つでも成績がEもしくは不可の科目又は、成績判定が出来ない科目があった場合及びその追試験に合格できなかった場合、留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。
学修支援等
（概要）①入学時 説明会の実施。②在学中は専任の教員が指導し、個々にあった学習指導を行う。③個別面談を半期に1～2回実施し、学習等について理解する機会を設けている。④学生の勉学を整えるために、独自の奨学金制度等を設け、また、設備面も寮を設置し、生活の支援を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
3人 (100%)	人 (%)	3人 (100%)	人 (%)
（主な就職、業界等）（有）辻村和裁研究所、他呉服店、法衣修繕企業など			
（就職指導内容）3年次より業界研究や進路を本格的に検討させ、就職活動をさせている。希望者には履歴書や面接等の対策を行い、マッチする企業があれば紹介している			
（主な学修成果（資格・検定等））国家技能検定和裁技能士2級、3級取得			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	2人	10.5%

(中途退学の主な理由) 就職への進路変更、1年間の休学後の退学
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に個別面談を行うことで、できるだけ学生の事情を把握。

学科等の情報 3-3

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
服飾・家政		専門課程	和裁本科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年		3276 単位時間/単位	34 単位時間/単位	単位時間/単位	3242 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
2人	2人	人	7人	人	7人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 教育基本法に従い和服・和裁の技術の修得を行い、それをとおして豊かな教養と人格を備えた人材を育成することを目的としています。カリキュラム編成において設定した科目は、全てこの目的を達成するための担いがあります。授業計画の考え方としましては、学生が主体的に学習を進めることができるよう、授業の目的や目標、成績評価などについて、周知するものです。また、意義としましては、学生の学習を効果的に支援できる、授業改善につながる事が挙げられます
成績評価の基準・方法
(概要) 和裁実習の科目においてA～Eの5段階評価を行い、評価がD以上を当該科目の修得レベルとする。他実習科目においては、優・良・可・不可の4段階評価を行い、評価が可以上を当該科目の修得レベルとする。各学科において定められた科目すべてに対して判定会議において修得レベルに達したと承認を得られた場合、進級認定を与える。但し、E評価、不可の判定があり、判定会議において追試験を認めた場合、それを受験し一定の基準をクリアしたもののみ、進級認定を受けることができる
卒業・進級の認定基準
(概要) 総出席日数の不足により、進級・卒業認定できないものは留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。各学科の年間の課程で定めた各科目の内、一つでも成績がEもしくは不可の科目又は、成績判定が出来ない科目があった場合及びその追試験に合格できなかった場合、留年扱いとし、次年度に同一課程の再履修を求める。
学修支援等
(概要) ①入学時 説明会の実施。②在学中は専任の教員が指導し、個々にあった学習指導を行う。③個別面談を半期に1～2回実施し、学習等について理解する機会を設けている。④学生の勉学を整えるために、独自の奨学金制度等を設け、また、設備面も寮を設置し、生活の支援を行っている

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

0人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等) この年度は無し			
(就職指導内容) 1年次より業界研究や進路を本格的に検討させ、就職活動をさせている。希望者には履歴書や面接等の対策を行い、マッチする企業があれば紹介している			
(主な学修成果(資格・検定等)) 国家技能検定和裁技能士3級取得予定			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由) 無し		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的に個別面談を行うことで、できるだけ学生の事情を把握。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
師範科	150,000円	540,000円	200,000円	施設維持費 50,000円、教育充実費 150,000円
高等師範科	150,000円	540,000円	200,000円	施設維持費 50,000円、教育充実費 150,000円
和裁本科	150,000円	600,000円	200,000円	施設維持費 50,000円、教育充実費 150,000円
	円	円	円	
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html

<p>学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）</p> <p>実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、自己評価の結果を評価することを目的とする。</p> <p>○評価項目は自己評価項目に基づきます。主な項目は下記になります。</p> <p>1. 教育理念・目標 2. 教育活動 3. 学生受入れ 4. 教職員組織 5. 施設・設備等 6. 学生生活支援 7. 学校運営</p> <p>※以下3、4条は辻村和服専門学校 学校関係者評価委員会規程より抜粋</p> <p>第3条 委員会を構成する委員は、3名以上とし、本校の職員及びそれ以外の者で次に掲げる者のうちから、校長が委嘱する。</p> <p>(1) 保護者 (2) 本校卒業生 (3) 地域住民 (4) 地元企業関係者 (5) 高等学校関係者 (6) その他教育等に関する有識者</p> <p>第4条 委員会は、本校で行われた教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。</p> <p>校長は学校関係者評価実施後に開催される最初の学校運営会議にて報告し、随時、検討及び改善の指示を行います。</p>																	
<p>学校関係者評価の委員</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>楠神博生 くすかみ呉服店 代表取締役</td> <td>2019年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>地元企業関係者</td> </tr> <tr> <td>山本久子 静岡和装教育推進会 監事</td> <td>2019年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>その他教育等に関する有識者</td> </tr> <tr> <td>高橋多恵子</td> <td>2019年4月1日～ 2025年3月31日</td> <td>本校卒業生</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			所属	任期	種別	楠神博生 くすかみ呉服店 代表取締役	2019年4月1日～ 2025年3月31日	地元企業関係者	山本久子 静岡和装教育推進会 監事	2019年4月1日～ 2025年3月31日	その他教育等に関する有識者	高橋多恵子	2019年4月1日～ 2025年3月31日	本校卒業生			
所属	任期	種別															
楠神博生 くすかみ呉服店 代表取締役	2019年4月1日～ 2025年3月31日	地元企業関係者															
山本久子 静岡和装教育推進会 監事	2019年4月1日～ 2025年3月31日	その他教育等に関する有識者															
高橋多恵子	2019年4月1日～ 2025年3月31日	本校卒業生															
<p>学校関係者評価結果の公表方法</p> <p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.tsujimura.ac.jp/others/jouhoukoukai.html</p>																	
<p>第三者による学校評価（任意記載事項）</p>																	

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.tsujimura.ac.jp/</p>
